

作成番号:0155

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-155

内容:中等度/後期早産の出生児は神経発達障害リスクが高い。

出典:Neurological development in children born moderately or late preterm: national cohort study.
BMJ (Clinical research ed.). 2024 Jan 24;384:e075630. doi: 10.1136/bmj-2023-075630.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38267070/>

異なる在胎週数で出生した子供における長期的な神経発達アウトカムの評価を目的とするスウェーデンの全国規模のコホート研究を、カロリンスカ研究所の研究者らが実施し、その成果は、BMJ誌 2024 年 1 月 24 日号で報告された。

対象は、1998～2012 年に、在胎期間 32 週 0 日～41 週 6 日の単胎の生児として出生し、先天奇形のない子供 128 万 1,690 人であった。主要アウトカムは、16 歳までに診断された運動障害、認知障害、てんかん発作、視覚障害、聴覚障害、およびあらゆる神経発達障害の複合であった。7,525 人(0.6%)が在胎週数 32～33 週(中等度早産)、4 万 8,772 人(3.8%)が同 34～36 週(後期早産)、25 万 7,591 人(20.1%)が同 37～38 週(早期正期産)、71 万 3,952 人(55.7%)が同 39～40 週(正期産)、25 万 3,850 人(19.8%)が同 41 週(後期正期産)に出生した。あらゆる神経発達障害の複合リスクは、正期産児と比較して、中等度早産児(ハザード比[HR]:1.73[95%信頼区間[CI]:1.60～1.87]、リスク群間差:4.75%[95%CI:3.88～5.60])および後期早産児(1.30[1.26～1.35]、2.03%[1.75～2.35])で高かった。同様に、運動障害、認知障害、てんかん発作、視覚障害、聴覚障害、重度障害のリスクはいずれも、正期産児に比べ中等度早産児および後期早産児で高かった。また、運動障害、認知障害、てんかん発作、視覚障害、聴覚障害、あらゆる神経発達障害の複合、重度障害のリスクはいずれも、在胎週数 32 週に出生した子供で最も高く、41 週まで徐々に低下しており、正期産(在胎週数 39～40 週)と比較して早期正期産(同 37～38 週)の子供で高かった。



Neurological development of moderately and late preterm children

Summary

Children born moderately or late preterm have higher risks of adverse neurodevelopmental outcomes than children born full term. These findings may help with better risk assessment, follow-up, and healthcare planning for the largest proportion of preterm children

Study design

Prospective cohort study

Data from [Swedish national registries](#)

Born at 32⁺⁰ to 41⁺⁶ weeks, from 1998 to 2012

Population

1 281 690 liveborn singleton children | Sex: 51% male

Median follow-up: 13.1 (IQR* 9.5-15.9) years

No congenital malformations

Outcomes — Hazard ratio — Risk difference (%)